

名古屋芸術大学

後援会報

第46号 2009年3月31日発行

卒業生に贈る言葉



後援会長
菅沼 行生

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、この4年間で様々なことを学んできたことと思います。中でも専門的な技術や知識は「わたしには、こんな得意なことがある」と言えるほどだと思えます。その技術や知識は、卒業後すぐに役立つかどうかは、人それぞれでしょう。実社会ですぐに役立つ人もいれば、いつ役立つかわからない人もいると思えます。

しかし、皆さんが身に付けた技術や知識以上に大切なものは、無から有を生じさせる創造力を培ってきたことではないでしょうか。思うような表現ができずに想像を絶するような苦しみを味わった人もいるでしょう。体力の限界を超えるまで表現活動に取り組んできた人もいるでしょう。友と徹夜して創作・練習したこともあるでしょう。この経験は、これから出遭うであろう困難に立ち向うための勇気や自信を育てたことと思えます。

卒業後、どのような職に就こうとも4年間で身に付けた技術、知識を役立てて、創造力を発揮してほしいものです。そして、芸術に携わり、心の豊かさを醸し出している皆さんは、周囲の人に「芸術っていいものだな」「何か始めてみようかな」と影響を与えることと思えます。

それには、皆さんが持っているその技術、知識、創造力を一生涯磨き続けてほしいと思えます。そして、磨き続ける中で、謙虚さを忘れず、その技術や知識をさらに広く表現するための夢が語れるような人生を送ってください。

保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。この4年間の精神的・財政的な面でご苦労があったことと思えます。長い間、後援会へのご協力ありがとうございました。まだまだご苦労は続くかもしれませんが、お子様の幸せを願いつつ精神的な支えとなつていただき、自立した大人となるよう温かく見守っていただきたいと思えます。



学 長
榊 達雄

卒業おめでとうございます。

皆さんは、人生の貴重な時期に、名古屋芸術大学において、多くのことを学んだことと存じます。在学中に学んだ学問・芸術、喜びや悲しみを共有した友人は、皆さんの財産であり、これからも大切にされることを望みます。また、卒業の喜びを迎えることができるのは、皆さんの努力によるだけでなく、皆さんの周りの多くの人々に支えられてきたことに負うところが大きいことを忘れないでください。

現在人類は、世界的には民族対立・宗教対立等による戦争、地球温暖化、エネルギー、食料等々、人類の未来の生存にかかわる重大な課題を抱えています。アメリカに端を発した金融・経済危機は、世界に及んでおり、わが国でも企業による人員削減、雇い止め等の深刻な影響が出ています。皆さんは、こうした問題から目をそらさず、世界的視野で考えるようにして下さい。人格の完成は、生涯を通じて追求すべきものです。皆さんが新たな問題に直面し、その解決に向けて取り組むために学習するとき、大学で学問・芸術を学んだ方法が役立つと考えます。皆さんは、今後どのような方向に進むにしても、理性と高い志をもって、生涯学び続ける姿勢をもって自らを磨くとともに、社会の進歩、人類の進歩への一翼を担うよう期待します。

名古屋芸術大学は、音楽・美術・デザイン・人間発達の4学部を擁する芸術系の総合大学として、人間の感性を重視した芸術および人間発達に関する真理の探究を通して、理性と感性が調和した豊かな人間形成を目指すことを大学の理念とし、地域に根ざすとともに、世界に開かれた大学であることに努めています。皆さんが、卒業後も母校がどのように発展していくかに関心を持ち、見守っていただければ幸いです。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

今年度声楽コースでは、海外からの招聘教授による声楽特別レッスンを、2008年10月6日から22日まで行いました。イタリアの姉妹提携校であるマルティーニ音楽学院教授のヴィルマ・ヴェルノッキ女史(メゾソプラノ)をお迎えして、3年生・4年生の学生に一人2回から3回のレッスンと、院生のオペラ演技の指導をお願いしました。ヴェルノッキ女史は、世界的に有名な歌手でイタリアを中心にヨーロッパ各地で活躍された方です。現在は、指導者として後進の指導に当たっていて本学での指導は3度目になりました。学生の気持ちもよく把握され、的確な指導で学生に喜ばれました。指導の際通訳はつけません。これは声楽コースの方針です。一人で外国に行って勉強することを想定し、自分の力で先生の言っていることを推測させ、自分なりに理解させようという狙いです。一見学生に取りまはしては、困難なことのようにですが、それなりに理解してレッスンを受けているようでした。

この他、例年の歌曲コンサートは、2009年2月14日に電気文化会館、オペラ公演は、中京大学ブルニエホールにて3月18日行いました。歌曲コンサートは第7回となり、オペラ公演は31回となり、益々その内容が充実してきています。オペラ公演は、今回も国際交流公演として行い、韓国の姉妹校である慶南大学音楽教育学部より、2008年の卒業生Tae Honn Park 君(バリトン)を迎えて、カヴァレリア・ルスティカーナを上演しました。大変な美声の持ち主ですばらしい演奏を披露してくれました。本学の学生たちとの交流もうまくいき、本学の理念である国際的視野での教育として、充分効果を上げたと確信しています。

ピアノコース

ピアノコースでは昨年度のポーランド研修旅行に引き続き、本年度も5月にハンガリーのリスト音楽院へ20名の学生が研修旅行へ出かけました。本校へ長く教えに来てくださっているファルバイ・シャンドール先生のご尽力により多彩なプログラムで実現いたしました。

4人の先生による個人レッスン、リスト音楽院の学生を交えての演奏会、そして古谷誠一演奏科長による指揮で3人の学生が当地のオーケストラとの共演をすることができました。特にコンチェルトの会場では、満員の観客から熱い拍手を沢山いただき大成功で、学生たちも大きな収穫があった研修でした。

毎年の演奏会としては、7月ピアノコンチェルト、8月サマーコンサート、11月ピアノの夕べ、12月卒業生

のためのスペシャルコンサート、2月春のコンサートと開催しております。本年度から特別客員教授として、アレクサンダー・セメツキー先生をお招きしての公開講座、また1月にはヴァディム・サハロフ先生と共に特別セミナーとして多くの学生のレッスンをお願いしました。その他ケビン・ケナー氏、アレクサンダー・ルビャンツェフ氏の演奏会など行っていただきました。学生たちも、このような豊富な舞台経験と良い勉強の機会に恵まれ、益々意欲的に勉強に取り組んでいます。

弦管打・バンドディレクターコース

名古屋芸術大学アンサンブル研究所主催で、ふたつのOBアンサンブルが発足しました。

ひとつは2008年9月NUAストリングアンサンブルが電気文化会館で催され、思った以上の観客の声援にアンコールのことも考えていなかったのが、当惑するほどでした。2009年8月27日に第2回目を計画しており、プログラミング中です。

もうひとつは2009年3月12日熱田文化小劇場で、OBと教員によるフルートオーケストラ演奏会で、教員のソロ等を含め日本人の作曲家による多彩なプログラムで開催されます。

3月26・27日の2日間、第4回目のオーケストラワークショップが開かれ、練習、演奏会、パーティと参加者全員の熱い音楽の雰囲気にも包まれることを期待しています。

電子楽器コース

久しく不在だった本コースの専任として、本学非常勤で演奏家の鷹野雅史氏が、2008年度より准教授として就任しました。

学生たちの学外演奏活動が活発化して、5月と9月にヤマハミュージック東海とタイアップした伏見の堀川フェスティバル、10月には同社リニューアルオープン記念イベントに名芸学生コンサートという形で参加しました。学内の活動も、大学主催の定演やコース主催の定演のアースエコー、オープンキャンパスでのプチコンサートは勿論、8月に始めての夏期合宿をつま恋で行い、20台アンサンブルやゲストの渡辺睦樹氏の演奏など盛りだくさんの非日常的刺激に溢れ有意義な学習機会となりました。年明けて2月は松内愛先生のコンサートを学内で行いました。

演奏学科長 古谷誠一

《音楽文化創造学科》

◎本年も9月に、サウンド・メディア、音楽療法、音楽総合選択コース1年生の合同セミナーを、八ヶ岳高原、山梨県北杜市小淵沢町で行いました。コースごとに、特別授業、または特別講座などを実施し、学生間の交流も深まりました。本セミナーを実施するにあたって、株式会社アルソア本社の協力で、八ヶ岳の自然と調和した近代的な空間の提供や、オーガニック食材による食事提供など、恵まれた環境で実施することができました。

◎12月16日(火)にしらかわホールにて、6回目となる音楽企画「ルネッサンス21～月～」を開催いたしました。企画運営を音楽ステージマネジメントコース、演出を音楽療法コース、作曲・PA・録音をサウンド・メディアの学生たちが担当し、さらに作曲コース、総合コース学生や大学院の院生もたくさん参加し、全員が一丸となって活気のあるイベントを創り上げることができました。来年度より、より新しいアート性を求めた新企画を、シリーズで開催していきます。

◎作曲コースでは、「ルネッサンス21」への作品提供や、昨年度より行われています、学生作品の試演会を、3月に実施します。

◎音楽教育コースでは、11月には武豊町において、音楽教育コースの主催による音楽会「親子で行こう！ゆめたろうプラザ サンマルコ楽団がやってくる」を開催し、地元の方々とともに音楽を通じて楽しい一時を過ごすことができました。また2月には、「音楽教育?(ぜみ)」の一環として学生16名とともに富山県の八尾と五箇山を訪れました。今年度のゼミのテーマは「日本民謡」でしたが、八尾の《越中おわら節》や五箇山の《こきりこ節》を生で聞き、日本民謡の魅力を改めて実感しました。

◎音楽療法選択コースでは、引き続き地域の障害児・者、高齢者施設にて音楽療法の実践授業を行っています。授業以外でも学生たちが自ら様々な施設等に出向き、音楽会や音楽療法活動などを、積極的に行っています。昨年12月16日に行われた「ルネッサンス21」では、会場内のハワイエにて、クリスマスソングや「崖の上のポニョ」などのハンドベル演奏を行い、ご来場者に暖かい拍手を頂く貴重な機会となりました。また、ここ数年にわたり、音楽療法士としての就職先の開拓のため、関連施設等の訪問を行っています。今年度はその活動によって、音楽療法を行う職員としての就職が決まった学生が複数います。今後も継続して行っていきたいと考えています。

◎サウンド・メディアコースでは以下のように様々な活動を行いました。

●「第8回 飛騨国際メルヘンアニメ映像祭」で上映された「輪ニメーション」の楽曲、効果音制作をサウンド・メディアコース学生10人が担当しました。この作品は、12月6日(土)、飛騨芸術堂にて上映されました。

●1月22日(木) 15:00-19:00 2号館スタジオにおいて、エンジニアプロデューサーである、赤川 新一先生を特別講師として迎え、「サウンド・エンジニアの現状と今後の課題」と題した特別講義を行いました。

●3月3日(火)名古屋市千種文化小劇場にて、映像とサウンドの有機的結合をめざしたイベント「カレイドスコープ～New Generation」を、サウンド・メディアコース学生が中心となって行いました。1年生から4年生までのサウンド・メディアコース、音楽総合コース学生12人が作曲した楽曲をPf、弦楽等のアコースティックな楽器から、エレクトロニックまで、多彩な楽器を用い音楽を表現し、音と映像を強く意識したコンサートとなりました。

◎ミュージカル選択コースの学生たちは、今年も数多くのステージを体験することが出来ました。学年ごとの終了公演を始めとして、オープンキャンパスでのパフォーマンス、ジャズ&ミュージカル・コンサート、CBC自動車学校主催のクリスマス・コンサートなどのステージに立ちました。また、2月には高山市で行われた「飛騨・童話会議2009」に参加し、200人以上の飛騨地方の市民の皆さんと共にミュージカルを創りました。3月には恒例の定期公演を行い約900名の観客の前で「Pritty,Mighty,Jeanne」というミュージカルを上演しました。

◎音楽ビジネス・ステージマネジメント選択コースでは、2008年度はハードな実践授業を少し控え、机上中心授業を展開して参りました。しかし、その中でも昨年度のリクエスト企画2つと、継続企画2つの実践授業の他、新規企画1つを実施しました。ここでは後期活動状況をご報告致します。

☆ リクエスト企画

- 1、官学協同企画『音楽鑑賞講座‘08～音のときめき～』年6回シリーズ(10/25、11/8、12/13、2/21→音の饗宴「オーケストラとオペラの世界」)
小牧市に根付きつつある毎回超満員の人気講座。
- 2、地域密着型企画『芸術が薫る・港100』年3回シリーズ(8/29、11/22、3/1→港101③“ドレミで結ぶ子どもと大人の吹奏楽”)
港商店会、企業界に売り込むビジネス実践企画。

☆ 継続企画

- 1、音楽情報誌出版「音蟻：2008年Vol.7」音楽ビジネスコースがとらえた最新音楽情報。(9月8日発行)
- 2、新人発掘「電子オルガンの世界」。“Voice” Maiko Sawamura
CD制作から、新人デビューまで。(’09.3/23発売)

☆ 新規企画

- 1、「ショッピングモールイベント」(株)ティプランとの産学協同企画。
アクアウォーク大垣、エアポートウォーク名古屋の2ヶ所で10月スタート！
* ’08.12/27 (土)
Manifold by J&P Live In Airport Walk Nagoya
本学学生による演奏を中心としたライブ。

◎ジャズポップスコースは、今年完成年度を迎え初めて卒業演奏会を学内で行います。4年間を振り返ると、学生の演奏活動が着実に学内から学外へ広がり、評価が高くなっています。演奏技術のみならず、音楽理論や教養を身につけた学生の演奏は、ジャズ音楽に芸術性を感じ取ることができ、音楽大学の一つのコースとして、完全に定着したと考えています。

音楽文化創造学科長 田中範康

美術学部

日本画コース

フランス・ブルゴーニュ地方の中世フレスコ壁画を、日本画コースの教員4名、学生6名、卒業生2名が模写し、各地で発表することが出来ました。

壁画はシャロン・シュール・ソーヌ市のサン・ヴァンサン大聖堂にある15世紀に制作された「聖母の御眠り」。臨終の床にある聖母マリアと、取り巻く十二使徒が描かれています。聖母をテーマにした中世美術は、フランスで貴重とされています。

本学の日本画コースでは、仏文部省公認壁画修復家で、フレスコ画家の高橋久雄本学名誉教授に、1997年より毎年、フレスコ模写の指導を受けていますが、指導開始から10年の集大成として、一昨年5月から高橋先生が、修復を手がけた「聖母の御眠り」模写に取り組んできました。

日本画を学ぶ者にとって模写は、原本が放つ精神性、又当時の描法にふれ、古色をおびた色を現代の絵の具を使用し、再現することは重要な研究と位置づけております。

写真を基にした下絵づくりは、本学アトリエで、彩色等は現地で行い、昨年5月に完成させました。

偽作とされるのを防ぐため、実物の95%に縮小して制作。それでも縦約2.6メートル、横約3.2メートルの作品になりました。

発表は次の開場で行いました。

<フランス>

パリ展：ユネスコ本部

2008年6月5日～6月12日

シャロン・シュール・ソーヌ展：サン・ヴァンサン大聖堂

2008年6月15日～6月20日

<日本>

川越展：川越市立美術館

2008年11月26日～12月7日

東京展：新宿文化センター

2008年12月9日～12月14日

名古屋展：名古屋芸術大学アート&デザインセンター

2009年1月14日～1月20日

大学関係者を始め、多くの方々に御理解とご協力をいただき、制作と発表を無事終える事が出来ました。得難い経験をつむ事が出来たことを感謝申し上げます。

日本画コース 荒木弘訓

美術学科洋画コース

今年度、洋画コースでは、今年度の特別客員教授として蓑豊(みの ゆたか)氏をお迎えしました。蓑教授は現在、サザビーズ北米本社副会長、金沢21世紀美術館特任館長、大阪市立美術館名誉館長に在職中です。

去る6月20日、本学G棟201教室で、蓑教授による特別講演を開催しました。洋画コース全学生をはじめとし、他学科学生、東海地方の美術館学芸員の方々、一般の方々など、多くの出席者で盛会となりました。

演題は『21世紀の美術館と美術市場』で、中国の美術作品が、世界中のマーケットの中で高価で取り扱われている理由や、日本人との価値観の違いなど、学生達には非常に役立つ貴重な内容のお話しをしていただきました。

洋画コースでは、今後も学生にとって有益なプログラムを数多く企画し、美術を意欲的に学べる環境作りに取り組んでいく所存です。

洋画コース 教授 原田 九

▲『聖母の御眠り』模写展 案内ちらし

デザイン学部

後期に入り、デザイン学部では9月22日より、講義、実技とも通常授業が再開されました。4年生は4年間の研鑽の総決算となる春の卒業制作点に向けて、制作が始まりました。3年生、2年生での専門コースでの授業、1年生は2年生からのコース選択に配慮したファンデーションの授業が始まりました。

今年度の客員教授として、英国の工業デザイナー、ポール・プリーストマン氏の講演、ワークショップ、展示会ははじめ、姉妹校の英国ブライトン大学の研究開発センターのジェラルド・フロイス、河野英一両先生の特別講演(別報)はじめ、デザイン学部、各ブロックでは通常授業をベースにしながらも、ブロック・コース独自の展示会、講演会、ワークショップなど様々な取組みがなされました。

プロダクト・スペースのブロックでは11月には卒業後、社会に出て10年ほどになる、特に顕著な活躍をしている卒業生6人を招いての展示会、さらに彼らを囲んで在学生との交流の場を設けました。先輩の目覚ましい活動に熱心に聞き入る学生の姿が印象的でした。またクラフトブロックのメタル・コースでは、ジュエリーデザイナーのあさくら やよい氏(日本ジュエリーデザイン協会会員)を招いての講演会(12/11)、イラストレーション、ヴィジュアルデザイン・コースでは、やはり11月に開かれた絶滅動物を救うキャンペーンの一環として国際デザインセンターで開かれた「SAVE ME」展に参加を始め、同ヴィジュアル・コースの3年の学生は、名古屋市内で名古屋の特色をアピールするための展示会「なごや展」(12/9～12/14)を開きました。

ライフスタイル・ブロックでは月例で教員、学部生、大学院生、卒業生の有志による「ライフスタイル研究会」を開き、個々の研究発表と交流の場とする取組みが行われ、1月には、「ライフスタイル研究」の特別講義に社会学者の金益見氏を招いています。

その他、テキスタイル、イラストレーション、メディア、新設のメディアコミュニケーション、セラミックのコースでも様々な取組みがすすめられました。

10月末に開催された「東京デザイナーズ・ウィーク2008」に、プロダクト、スペース、ヴィジュアル、メディア、テキスタイルのコースの学生がそれぞれチームをつくり参加しました。(株)エイブルとのプロジェクトは7大学共同でのプレゼンテーションとなり、ハードな取組みでしたが学生にとっては貴重な体験になりました。なお、この取組みは国内外からの多くの来場者があり、評価されています。

もちろんこれらの、特別な取組みだけでなく、最も大切なのは通常授業です。講義、実技とも毎週地道な勉強と研究、制作が要求されます。デザイン学部、学科はコースごとに分かれたマン・ツー・マンに面談、指導を行うことを実技教育では基本として運営しています。学年末には、1年生から2、3年生の各コースの学生も、課題作品の制作に追われます。その全体的な成果は、学部全体で、年間通じて取り組んだ課題作品をすべて展示するレビュー展(総合作品展示)で示されます。

今年のレビュー展は、来年からの新1年生になる本学合格者も招いて、例年より遥かに多い学外からの参観者もあり、盛大に行われました。

卒業生の活躍では2004年インダストリアル・デザインコース卒業の浜田清絵(現本学助手)さんが、防災用具『温水』で第6回国際コンペティション「名古屋デザインDO!」でグランプリを受賞するなど、明るい話題も多いこのごろです。

最後に、今、4年生は2月24日から開かれる卒業制作展を前に最後の仕上げに全力をあげています。

デザイン学部長 溝口和夫



▲なごや展

人間発達学部

人間発達学部が開設されて、2年が経ちました。

本学部は、保育所・幼稚園・小学校まで幅広い子どもの発達について理論と実践を学び、よりよい教育・保育者を育てています。芸術大学の環境の中で、学生たちは、保育者・教育者を目指し、はつらつとした学生生活を楽しんでおります。

「知識に基づいた幅広い理論と実践的教育技能の修得」のため、今年度も様々な見学会、セミナー、講座等を実施してきました。ここでは、後期に実施した事業について紹介します。

文化創造セミナー

2008年12月13日に北名古屋市健康ドームで開催された「身体と心をつなぐふれあい遊び」は、瀬戸口清文先生(大妻女子大学教授)を講師にお迎えして行われました。NHK幼児番組8代目「体操のお兄さん」である瀬戸口先生は、元気いっばいに姿を見せ、さっそく学生たちと歌を歌い、会場を楽しい雰囲気に包みました。

先生は、今の子どもたちに大切なのは「触れ合い遊び」といい、歌の途中で身体を触れ合う表現遊びを入れたり、遊びの中でスキンシップを取り入れる方法を紹介しました。さらに、「上手よりも情熱」であり、一生懸命な姿を見せる先生は子どもに愛され、失敗してもやってみせることが大事であるということ運動遊びの実践を取り入れながら説明していました。「心が動けば体も動く」「体が動けば心も弾む」「心弾んで感じて動くから感動する」という先生の言葉通り、学生たちは大いに体を動かし楽しみながら学ぶセミナーは大盛況の内に幕を閉じました。短大部の卒業生をはじめ、学外からも多数の参加者があり、本学部から地域への文化の発信にも貢献できました。



小学校体験活動

2月に、小学校教諭免許取得を希望する学生の内、1年生50名・2年生50名合計100名が北名古屋市の10の各小学校に約2週間の「小学校体験学習」を行いました。実施内容はアシスタントティーチャーとして教育活動全般にわたる場面での観察や参加をします。このねらいは体験することにより自らの人間性や個性・感性を磨くことにあります。素晴らしい教育・保育者を育成すべくこの活動を継続的に実施し、然るべき就職試験に向けて、全教員が支援態勢で臨みます。



子ども発達学科 教授 星野英五

学生部からのメッセージ

学生部長 竹本義明

米国発の経済危機で世界が揺れ続ける中、地元愛知県の自動車産業への影響が予想以上に大きく、関連産業を含めると底の見えない不況の波が押し寄せています。私立大学は大規模校と中小規模校の2極分化が顕著となる中、経済的事情による入学者の減少に加え、退学者の増加が心配されています。

本学では、大学を取巻く環境の変化に対応すべく改革・改編を積極的に押し進め、2007年度から芸術系総合大学として4学部体制をスタートさせましたが、社会状況は我々の予想を上回る速度で変化し、また、学生の修学意識の多様化もあり、さらに改革・改編を継続させる必要に迫られていると同時に、退学者防止の取組みも重要となっています。

学生部の所管は、教務並びに学生生活全般ですが、教務関係では授業科目の修得について、学生へのケアが益々重要となり、担当者は以前より多くの時間が必要となっています。また、学生生活では、現代社会を反映して傷害や窃盗、そして薬物による事

件に大学生の関与が取り沙汰されているが、本学においては機会あるたびに学生へ注意を喚起して参ります。

教務関係では基礎学力の向上のため、幅広い学問・研究を教育素材として活用できる学際科目(複数の学問分野に関係する学問・研究を教育素材とした学科目)を設け、学年進級に応じ専門に特化した独自性のある授業科目を展開させ、最近増加している一般企業への就職についても良い効果を出せるよう取組んで行きたいと考えています。

現在、名古屋芸術大学の奨学金規定は、同規模大学で比較するとトップクラスの資金を注入していますが、退学者の増加に歯止めをかけるには、奨学金の配分について、とりわけ対象者に広く支給できる方法を検討し、実施する必要があると考えています。

学生部は後援会の保護者の皆様と広い接点を持っており、今後とも連携を深め、諸問題の改善に努める所存でございます。これからも本学のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます、メッセージと致します。

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)
成績について 証明書発行について 教員免許・学芸員資格について	教務課	
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課	
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課	
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)	
生涯学習講座について	生涯学習センター(芸術文化交流室)	
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	
美術学部・デザイン学部の主催する 展覧会について	芸術文化交流室	西キャンパス 0568-24-0325 (代)
アート&デザインセンターについて	アート&デザインセンター(芸術文化交流室)	西キャンパス 0568-24-0325 (代)
後援会について	芸術文化交流室	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生相談室からのメッセージ

聴くということ、話すこと

人間発達学部教授
学生相談室長 佐藤勝利

本学の学生相談室は東西両キャンパスに設置されており、それぞれが週4日開室しております。

一般的に、全学生の4%程度が利用しておればその学生相談室は十分に機能していると言われますが、本学では例年5%程度の学生が利用しております。また、保護者の方々や教職員からの相談も少なくはありません。相談内容は、「精神衛生」「修学上の問題」「学生生活」「対人・異性関係」などが上位を占めますが、おおよそ学生の生活にかかわる総てとって良いほどの種々の問題が持ち込まれています。

私たち相談員は、それらの問題の解決に少しでもお役に立とう（あるいはその解決に向けての戦いに一緒に）と努めているわけですが、そこでの活動は来談された方のお話を「聴く」ことから始まります。もちろん適切なアドバイスが功を奏することもあります。また、「聴く」ことを抜きにしてアドバイスをさしあげようとしてもそれはほとんど無理な（来談者にはなかなか入らない）のが常のようです。

ここでは、この「聴く」という作業について少しお話しさせていただきますと思います。

「聴く」ということ

私たちカウンセラーは、好んで「聴く」と書きたがりません。これはどんなことを意味するのでしょうか。ちょっとここで「きく」と読めそうな漢字を漢和辞典で探してみました。

聞：耳に入る、きこえる

訊：問う、問いたず、取り調べる、責める、咎める

尋：たずねる、さがしもとめる、ききたず

聴：念を入れて詳しくきく、待つ、受ける、従う、任せる、ゆるす、ききいれる、明らかにする

「聴く」とは“鳥の音が耳に聞こえてくる”といったときの「聞く」とは違って、「耳をすましてきく」「こころに聴診器をあてるようにきく」という意味を持った漢字なのだとはきいていたのですが（私たちは“hearではなくlisten toなのだ”と教育されました）、“待つ”とか“受ける”“ゆるす”といった意味を持つことを知り、嬉しくなりました。（何と待てない大人が多いことか。）

「話す」ということ

それでは来談された方が「はなす」とはどのようなことなのでしょう。

放：ときはなす、逃がしてやる

離：はなれる、とおざける、あきらか

解：ものごとのもつれをとく、こだわりをとく、さとの、ものごとの筋道がわかる、のみこめる、ゆるす

「はなす」と読めそうな漢字を辞典で拾ってみたのですが、こんな文字が見つかりました。

とすると（ちょっと想像をたくましくするのですが）、来談された方が、「お話をする」とは、ご自分の今とらわれている問題から“（一旦、）距離をとる”“（それを）遠ざけてみることによって”（問題の本質を）明らかにする”、“（とらわれを）解き放つ”“ものごとのもつれを解く”という意味を持った行為なのではないかと思えてくるのです。

高名な心理臨床家であり文化庁長官でもあった、元京都大学教授 河合隼雄(故人)は、

“告白が意味を持つのは、それが他者によって真に人間的に受けとめられたときだけである。そのとき初めて人は社会的に適応していくことができる。”

と述べています。訴えや思いが他者によって本当の意味で聴きとられ、受けとめられると、ひとは自らの内にある“自己治癒力”を発揮し、立ち上がっていくことが出来ることを示唆しています。

相談室に来談される方が、誰にも話せなかった辛い思いや屈折した思いをお話になり、ご自身のこころのとらわれを解き放ち、もつれを解いていかれるために、そして最終的にはご自分の足で立ち上がっていかれるために、私たちは（「聞く」や「尋問する」ではなく）「聴く」という作業を通して、その思いを「真に人間的に受けとめ」たいと思うのです。

日頃、ご子息・ご息女様との関係の中で、「子どもの考え方が理解できない」「よかれと思って意見しているのに入っていかない」とお感じになっておられる保護者の方々もお見えになるのかもしれませんが、親とカウンセラーの立場や役割を一緒にすることは出来ませんが、何らかの参考にしていただければ幸甚です。

東キャンパス電話 0568-24-0322 (ダイヤルイン 内線529)
携帯 090-5036-5178 (開室時間内のみ通話できます)

西キャンパス電話 0568-24-0350 (ダイヤルイン 内線313)
携帯 090-6474-9815 (開室時間内のみ通話できます)

予約優先メール soudan@nua.ac.jp (予約のみ。メール相談は行いません)

皆さん受賞おめでとうございます!

2008年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

(※受賞等の情報は芸術文化交流室までお寄せ下さい。
 ※下記以外にも受賞された方がいらっしゃると思われますがご了承ください。)

音楽学部

コンクール名	受賞名	学科・コース	氏名
第4回 TIAA全国作曲家コンクール 室内楽部門	奨励賞	音楽研究科 音楽学専攻(作曲)	奥野 浩康

美術学部

展覧会	賞	学科・コース	氏名
第40回 日展	入選(日本画)	大学院美術研究科 修了	長谷川基子
		日本画 卒業	福岡 正臣
		日本画 卒業	宮原 剛
		日本画 卒業	木村 友彦
	入選(彫刻)	大学院美術研究科 修了	植田 努
		美術学科 アートクリエイター 1年	松井みどり
		大学院美術研究科 修了	澤口 准子
		大学院美術研究科 修了	長坂 伊紗
		彫刻 卒業	田中 厚好
		彫刻 卒業	梶川俊一郎
第3回 翔け! 二十歳の記憶展	グランプリ	造形科 2年	長谷川 健
第12回 日仏現代美術展	新作家賞	大学院美術研究科 2年	劉 駿
第4回 飾り瓦コンクール	グランプリ	大学院美術研究科 2年	サレー・モハマド・ リザール



▲第3回 翔け! 二十歳の記憶展 グランプリの長谷川 健さん

デザイン学部

■日本ジュエリーアート展の26歳以下部門では入選者50名のうち本学クラフトデザイン4年の学生が3人入選しました。

■「Happy Linimo」（ハッピー・リニモ）というテーマの愛知万博にデビューし、藤ヶ丘～八草間を走るリニアモーターカー車両のラッピングデザイン・コンペに、新しくスタートした新コース、メディア・コミュニケーションコースの学生が挑戦、1案が採用され、学生達のデザインでラッピングされたリニモが1年間走ることに決まりました。

■「UNEP 一国連環境計画」と「CSCP 一持続的消費と生産センター」の呼びかけによる国際デザインプロジェクト「SMART Business -Week by Week」に参加し5人のヴィジュアル・デザインとイラストレーションの学生がノミネートされました。

■北名古屋市国際交流協会は「協会章」のデザインを募集していましたが、本学ヴィジュアル・デザインコース3年 柴田光子さんの作品が多数の応募作品の中から選考されました。

■卒業生で第19期卒業生の山下哲司君は、カンヌ国際展でグランプリを獲得しました。

■第23期卒業生の相羽佳代子さんは、宇野亜喜良賞を受賞しました。

■第33期卒業生の棚橋正知君は、先年の手塚治虫賞につづき、赤塚不二夫賞を獲得しました。

■第31期卒業生の浜田清絵 - インダストリアル・デザインコース(現本学助手)さんが、防災用具『温水』で第6回国際コンペティション「名古屋デザインDO!」でグランプリを受賞しました。

■第35期卒業生 土田泰子さん(クラフトデザインコース メタル・ジュエリー選択コース)は、2008年度アサヒクラフト展で準グランプリを受賞しました。展覧会は2009年5月大阪で開催されます。

■インダストリアル・デザイン・コース3年 間瀬拓人君が TOYO TIRES タイヤデザイン・コンテスト2008で最優秀賞を受賞しました。

■スペースデザイン・コース3年 中島良輔君は「未来の神棚」デザインコンテストの応募し佳作を獲得しました。

■プロダクト・スペースデザイン・ブロック2年 宮崎美乃理さんは「第15回美濃和紙灯アート展」に入選しました。



▲「リニモ」のラッピングデザインコンペで見事優勝を果たしたメディア・コミュニケーションコースの皆さん

私 が 就職内定 を もらう まで

自分自身を見つめた日々

デザイン学部 デザイン学科
 インダストリアルデザイン選択コース
 4年 栗田彩子

私は、ゲームプランナーとして内定を頂きました。私が就職サイトを見ている時にピンときた職種は「ゲームプランナー」でした。ゲームクリエイターは中学生の頃の夢だった事を思い出し、これだと決め就職活動に挑みました。

プランナーという職種を受けるには企画書を提出しなければなりません。私は今まで企業用の企画書を制作した事が無く、ゼロからスタートしなければいけませんでした。まずは、企画書の制作の仕方を勉強し、教授たちに積極的に聞きに行きました。

企画書が完成し就職活動に挑みましたが、私が想像していたよりも過酷でした。

最初に受けた会社に落ちた時は、自分を否定された気がして何日も落ち込んだり、第一志望の会社に落とされた時は悔しさと情けなさの気持ちに襲われ友人の前で泣いてしまった事もあります。

一番衝撃を受けたのは、あるHPにゲーム業界一本でプランナー（女性）を目指している人はまず内定が貰えないと書いてあるのを見た時です。それを見て私は地獄に落とされた気分になりました。（ゲーム業界は男社会で、尚かつプランナーという職種は、絵が上手い～音楽が作れる～プログラムが組めるなどの特別な能力があまり求められてないため誰でも挑戦できると認識され倍率が跳ね上がり、大企業だと数百人に一人という倍率になります）

自分の道が見えなくなり自信喪失になった時に出会ったのが、内定を頂いた会社です。今まで自分の何が足りなかったのかをもう一度反省してこの企業に挑んだところ書類審査～一次面接を通過する事ができ、最終面接を受ける事ができました。そして、無事内定を頂きました。

今、振り返ると自分自身をあんなに見つめた事は今までなかったと思います。

就職活動をすることで自分が足りないところが浮き出てきて、成人したとはいえ、まだまだ未熟だと痛感しました。早く社会人として、大人として一人前になれるように学んでいきたいと思います。

（株式会社 ディンプス 内定）

やりたいことはまだまだたくさん

美術学部 絵画科 洋画コース
 4年 安田美奈

大学四年生になって久しぶりに旧友に会い、お互いの進路の話をした時、私は大学院志望だが、同時に教員採用試験も受けることを報告しました。すると旧友はとても驚き、私に「あんなに子どもが嫌いだったのにね。」と言いました。確かに私は子どもが苦手でした。しかし、月日が経つにつれて私の心は変化し、いつしか子どもが可愛いと思うようになっていました。そこに到達するには長い時間がかかりましたが・・・。

私は小学生で剣道を始め、十年が経過した頃、その道場で生徒から生徒を指導する立場へと変わりました。時を同じくして、高校生の頃に大学進学のために入った絵画塾でも、生徒を任されることになりました。両方とも突然決められたことだったので最初は戸惑い、子どもへの接し方や指導の仕方が全くわからず、とても苦労しました。その時、指導者と

しての責任や苦勞を初めて知り、その手応えから先生という職業を視野に入れるようになりました。以後、どうしたら生徒と仲良くなれるのかを試行錯誤し、時間をかけてゆっくりと自分の指導方法を身につけていきました。そして現在、先生になって三年が経ち、今では楽しんで指導をしています。

もともと院を志望していたのもあり、私は試験対策をほとんどしていませんでした。強いて言えば、三年生の時に大学主催の教員採用試験対策講座を受講しただけです。私は机に向かって勉強するよりも、子どもたちと出来るだけ多くの時間を過ごすことを選びました。子どもたちと一緒に過ごせる環境があったおかげで、私は濃密で充実した大学生活を送ることができました。そして、試験に合格することができました。これからは先生として働いていく一方、これまでと同じように作品を制作していくつもりです。仕事にも慣れて落ち着いたら、改めて大学院を受ける予定です。やりたいことはまだまだたくさん残っています。これからが楽しみです。

（愛知県中学校教員）

お金をもらって、また学びに行く と考える気持ち

音楽学部 音楽文化創造学科
サウンド・メディア選択コース
4年 山口泰幸

私が就職活動を始めたのは3年生の終わり頃でした。就職活動を始めた頃は、サウンドメディアで学んだことを"仕事"にするのか、"趣味"として続け、仕事は別に考えるのか悩み、一般企業も含め色々受けてみました。

活動当初は面接試験で、ガチガチに緊張して自分をうまく表現できないことが多くありました。また、集団面接や集団討論などでは、自分よりも面接慣れをしている人に圧倒されることもたびたびありました。面接は、数をこなさなければ自分を表現できない、そのためには今は努力するしかないと考え、一人で練習をしました。次第に、自分も面接に慣れ、自分自身を上手く相手に伝えられるようになってきた頃、企業から内定を頂くことができました。しかし、多くの企業を見ていく中で、私はやはり大学で学んできたことを生かすことができる仕事、音を扱う仕事がいいと強く思うようになり、内定を辞退しました。

サウンドメディアで学んできたことを生かせることができる仕事、とりわけテレビ業界に絞り就職活動をしました。その中でも、ケーブルテレビは、インターネットとの関係が強く、今後の時代のニーズに応え、面白くなるのではと考えました。また、ケーブルテレビは、番組制作において役割の固定がなく、一人で全ての作業をこなします。ですから、番組制作の全てに関われるという点にも惹かれました。



部署は、入社後に決定するので、始めから番組制作に関わることができるのかは、わかりません。しかし、会社全体で番組を制作しているという意識を持ち、個人個人が表現者であるという気持ちが大切だと思います。一日も早く見る人の心を動かす作品に携われるよう努力していきたいです。

また先生の言葉の受け売りなのですが、「お金を払って学んでいたのを、今度はお金をもらって、また学びに行くと考える」気持ちを大事にし、音についての学びを追及していきたいです。

(就職先 スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社)

教員へのスタートライン



音楽学部 演奏学科
声楽選択コース
4年 加藤景子

中学生の頃から描いていた「学校の先生になる」という夢が、今、叶おうとしています。

私は、中学2年生のとき担任をして下さった先生に出会い、『教員』という職業に憧れを持つようになりました。教育実習中に当時の担任の先生とお話をする機会があり、ますます「教師になりたい」という思いは強くなりました。

中学・高校と私立学校に通っていた私は、私立の教員を目指し就職活動を始めようと試みました。しかし、現実には採用がとても少ない状況でした。そのため、3年生からは公立学校の教員採用試験に向け、勉強に本腰を入れることにしました。結果は二次試験敗退。残念な結果に終わってしまったのです。

公立学校の教員採用試験の結果が発表されたのが

4年生の10月の初旬でした。ここまで来ても、私は、専任の教員になり担任を持つことを諦めることができません。そんな時、就職課から、私立学校教諭募集求人紹介を受けました。私はすぐ、求人票の学校へ連絡を取りました。その後学校の見学をさせていただき、音楽の授業で扱う曲目を自分自身で考えられることや、幼児福祉専攻のコースがあることから今まで学んできたピアノの技術を生かせること、そして何より、学校の生き生きとした雰囲気に触れたことで、この学校の教員になりたいと思いました。試験までは2週間あまり。「ピアノ重視です」と言われたことから、声楽コースの私は必死でピアノに取り組みました。練習の甲斐があり、そして教員採用試験に向け勉強したこと全てが私の自信となり糧となり、試験から1週間後、採用内定を頂くことができました。

やっと教員へのスタートラインに立つことができました。この先大変なことは山のようにあるでしょう。しかし、理想や憧れを抱いている今の自分を忘れず生徒と向き合い、共に成長していきたいと思えます。

(就職先 学校法人さくら学園 安城生活福祉高等専修学校)

親の想い

有意義な大学生活を

デザイン学部 デザイン学科 ライフスタイルコース
3年 母 磯野郷子

月日のたつのは早いもので、彼女が名古屋芸術大学に入学して3年経過しました。思えば、小さい頃は体力がないし、泣き虫で、幼稚園は月に何度も休みがちだったあの子どもも小学校・中学校と無事に卒業し、学校でも身体は小さいし目立つ存在ではありませんでした。

のんびり屋さんかしらと思っていた私たち両親ですが、中学に入って突然、ソフトボールがやりたいと言われた時はびっくりするやら心配するやらで大変でした。中学・高校とソフトボール部に所属し、小柄な彼女からはあまり想像ができませんでした。そのころから、意外に芯の強い、がんばり屋さんなんだなと思いました。

両親には似ずスポーツマンで、大学はデザイン系の学校に進みたいと言っていたのですが、本当に名古屋芸術大学に入学できるとは思いませんでした。

そういえば、小学校の高学年頃に、担任の先生が、祐子ちゃんの絵は描写がすばらしいと褒めていただいたことはありましたが、高校の先生も進路相談の際にデザインの方に進みたいなら、それなりの勉強をしたほうがよいとアドバイスをいただき、本当に恵まれていたと思います。高校は普通科でしたので、休みの日も熱心にデザイン塾に通っていた姿を思い出します。

大学に入って一生懸命に作品制作に取り組み、出展前には何日も徹夜したり、学校に泊り込んでの作品づくり…、私たちは、そこまで打ち込む彼女を見て、なぜそんなにまでするのか理解できませんでした。できあがった作品を見させてもらって、納得しました。

その成果もあって大学一年生のレビュー展では、表彰状までいただくことができ、これからの彼女の人生の励みになったのではないのでしょうか。これもひとえに大学の先生のご指導、学校で共に学ぶ友人のおかげだと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

こここのところの就職活動のきびしさで心配の多い日々ですが、短い大学生活で、好きなデザインを学べば有意義に過ごしてくれることを祈っています。

感謝の4年間

音楽学部 演奏学科 ピアノコース
4年 母 三浦暁子

今夜も娘の弾くラフマニノフのピアノ曲が2階の娘の部屋から微かに響いて、心地良い気持ちに浸りながら1日の疲れを癒している私です。この4年間の間によくここまで上達してくれたものだと感心しています。

想い起こせば早いもので、入学した年にこの「親の想い」を書いて、もう4年の月日が経とうとしています。この4年間で心に深く残っている想いは何と言っても大学・先生方への感謝の念です。

以前にも書きましたが、高校時代に進路や生きる道に悩み大変迷った末に選んだ音楽の道ですが、進路を決定したのが遅くどの科に入って良いかわからない状態で入学しました。でも音楽総合という、音楽を勉強したいけれどもはっきりとした方向性の決まっていない学生の為の科が設けてあったお陰で、その当時学びたかった声楽に重きをおいて勉強を始める事ができたのです。

その後3年生の時に、やはり本人としては小さい頃から慣れ親しんできたピアノを本格的に学びたいと思うようになり、ピアノコースに進む事ができました。ピアノを教える私としましては大変嬉しく、また娘も私に音楽のことで相談できるという事もあって心強かった様です。

そして21年の1月を迎え4年の卒業試験を無事終える事ができました。でもピアノコースに変わったのが3年生です。し、中学高校時代、趣味では弾いていたものの殆んどエチュード等のきちんとした勉強を怠っていたにも拘らず、試験の時には思っていたよりもよい席次を頂きロシアの教授による個人レッスンの機会も頂き感激しました。これも一重に4年間、娘の気持ちを良く理解して下さり、熱心で細やかに指導して下さいましたピアノの先生のお陰であると大変感謝しています。

娘は卒業したら音楽の勉強を続け乍ら、もう少し自信がついたらピアノの講師として活動を始めたいと、将来の道に希望を抱いています。このように娘を成長させて下さったピアノや声楽の先生、その他の先生方の愛情を忘れない様に今度は娘が指導するようになったらその経験を生かして行って欲しいと願っています。

そして今、幸せ一杯の想いで卒業させて頂ける事に心より感謝しています。

最後に卒業する娘に一言。「卒業おめでとう。4年間、本当に良く頑張ってくれてありがとう。これからも一緒に頑張ろうね。」

子の想い

大きな節目、 そして新たに大きな第一歩

音楽学部 演奏学科 音楽総合コース
4年 破田野真美

卒業にあたり、私の想い伝えさせて頂くことが出来たこと、感謝でいっぱいです。ありがとうございます。

私の大学生活は、慌しくそして追われるように時間が過ぎ去ってしまいました。けれど、この4年間に無駄な時間は無く、悔いがある訳ではないのです。音楽を通して、喜怒哀楽の感情を感じる事が出来たこと、それによって毎日毎日が成長させてもらえたと思うからです。そのひとつが、自分の力の無さからよく壁にぶち当たり、沢山泣きました。それはその時点の私の自己ベストであり、今それ以上のことを求めるのは無理だと気が付きました。「自分のやれることを今精一杯やろう」と努力してきたことで、ようやくた落ち込むということではなく、それがきっかけで前に進むことが出来るようになりました。

こんな私でも4年間過ごせたのは両親を始め、沢山の仲間、そして諸先生方からの愛情のご指導を頂けたからだと思います。

そして、特に私が大学生活で出会った声楽の大野賀久子先生は、私の進路も変えるくらいに音楽を学ぶ意欲、歌の素晴らしさをも教えて下さり、夢中になれるものを教えて下さいました。悶々としていた時に、私を引き上げて下さったことは「感謝」という言葉以外ありません。

また、オペラにも出会い、総合芸術という素晴らしさ、演じる楽しさと同時に緊張感、感動を勉強出来る事も魅力のひとつでした。今年度のオペラでローラ役を頂き、演じる事でもっと奥深いものを学ばせて頂いたような気がします。

4年間は与えられることばかりでしたから、大学卒業後は自分で判断し行動しなければならない事に、不安でいっぱいですが、私はこの4年間の経験を大いに生かし、教えて頂いた事を精一杯、感動してもらえる音楽を歌い手として伝えるようにしたい。そしてこれから出会える沢山の方の素晴らしいところを学ばせて頂き、日々成長していきたいと思えます。

この大学で学ばせて頂いたことを感謝しています。有難うございました。

ベストを尽くす！

デザイン学部 IDコース
3年 後藤慎介

私は今年の春に4年生になります。本当に月日の過ぎる早さに驚くばかりです。この大学で私は、多くの友人を得ることができ、また、多くの経験を積むことができました。

大学生活は高校までと違って、とにかく自由です。望めば多くの事が出来ますが、逆に望まなければ、無為にただ時間は過ぎてしまいます。まさに人それぞれですが、今、私自身はこの大学生活を非常に楽しんでおり、又、充実したものだと思っています。「あの時もう少し頑張っておけば良かった…」等の後悔は勿論ありますが、過去を振り返ってもしかたありません。だって過去には戻れないのだから…むしろ、後悔をいい経験としてとらえ、その分を取り返すつもりで残りの一年に「ベストを尽くしたい！」と思っています。

そして大学4年間という自分の可能性を試す場を与えてくれた両親たちに（普段あまり口に出すことがないので分からないかもしれませんが…）深く感謝しています。



2008年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

研修旅行前の一週間は、はっきりしないお天気が続きましたが、旅行当日は朝から貫けるような青空で旅行日和でした。私は思わず「今日の参加者全員の行いが良かったのかも！」と嬉しくなりました。



▲京都近代美術館

名古屋駅を出て養老サービスエリアで休憩し、草津を過ぎる頃、突然のバスに衝撃を感じました。誰もが何があったのかという一瞬の不安になったと思います。バスの運転手さんが「乗用車二台が事故を起こし、その一台がバスにぶつかりました」というアナウンスで車内は騒然に…。

バスを路肩に止め警察の現場検証が始まりました。事故車はバスの前方に一台と後方一台に止まったので、前の席の方が後ろ来ては後ろにいる

事故車を見に、後ろの席の方が前の事故車を見に行ってはそこで、座っている方と談笑する光景が見られました。道路改正法のおかげで全員シートベルト着用ということで車内も無事で、事故を起こした乗用車二台の方も怪我も無かったということで、ホッと一安心で再出発です。この事故で保険の為、生年月日を全員書くことになり躊躇しましたが、これは不要でしたね（笑）

一時間半程遅れて到着し、昼食をとりました。この時もすでに顔見知りになっており話が盛り上がり楽しい食事をとる事が出来ました。これも事故のおかげ？です。



次は待望の美術館巡りです。最初は京都国立美術館の「生活と芸術—アーツ&クラフ展」でした。美術のことはさっぱり解らない私ですが、一昨年参加した時に美術館での説明ではなく教授の



▲於 京都近代美術館



▲京都市美術館

話で興味を持って、絵を楽しんで観られたでの、今回もずっと近くで話を聞くことにしました。ずっと先生を独り占めにしてみません(笑) ゆっくり堪能してしまい、次の京都美術館「芸術都市パリの100年展」は30分ほどしか時間がなくゆっくり観られなかったのは残念でしたが、パリの雰囲気を感じることが出来ました。

バスに乗り込んでホッとする間もなく、湯の花温泉に到着。さっと温泉に浸かり宴会場へ。朝の事故から皆さん和気藹々と話が盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。



翌朝、「酒の館」の酒蔵を見学、説明の方は芸人かと思わせる程話が面白く思わず拍手してしまいました。午前中からお酒?と思ったのに試飲をいっぱいしてしまいました。お酒も良かったのですが、この時期にしかない丹波黒豆の枝豆を買えたのが嬉しかったです。

気温はぐんぐん上がり、10月中旬なのに暑いくらいで上着を脱いでの見学でした。自由散策の嵯峨野や清水寺は人がいっぱい、どこの長蛇の列…さすが京都だと感じました。

今回はハプニングもあり、いつまでも忘れない旅行となりました。事故に遭遇した時は驚きでしたが、お陰様で誰も負傷することなく、それによって皆さんが仲良く旅行出来ましたことが一番良かったと思いました。やはり「今回の旅行の参加者は日ごろの行いが良かった」と思いました。色々お世話になりました。見えないところをされた方々にもありがとうございました。本当に楽しい楽しい旅行でした。

事業委員長 破田野マリ子



▲於 京都 嵐山



2008年度 東キャンパス芸大祭

Mix juice

今年の芸大祭のテーマは『Mix juice』!

‘Mix juice’は、いろんな果物が混ざり1つ1つの味を出して、1つの美味しいジュースを作っています。

そんなMix juiceのように、1人1人が違った味を出して1つの芸大祭というジュースを作り上げたい! 1つでも欠ければ、美味しいジュースは完成しません。それと同じで、私たちの作る芸大祭も1人でも欠ければ素晴らしい芸大祭はできません。1人も欠けることなく、全コースの学生や地域の方にも参加してもらいたい! という気持ちをこのテーマに込めました。

毎年恒例の多ステージによるジャンル別のライブや、企画ものは好評でした。

ブルーステージでは、ジャズを中心とした癒しの空間を演出。グリーンステージではロックやパンクなど、ありとあらゆる音楽が3日間激しく行われました。毎年違う内装も一つの楽しみになりました。イエローステージでは、音大ならではのクラシックステージとして吹奏楽や、ゴスペル、合唱などの発表を行いました。オレンジステージでは、子供向けの企画を中心に、様々なイベントが開催され盛り上がったと思います。



そして、芸祭の中心となるメインステージでは、実力派バンドの演奏や、先生方によるライブ演奏、誰もが参加できる企画もたくさんあり、大いに盛り上がる事ができました! 地域企画として、今年はキタナゴレンジャーを呼び、たくさんの子供達がきてくれ、今までにはないステージになったのではないかと思います。

1日目、2日目と雨の中での芸祭となってしまう、テントが壊れたり、ステージの場所をかえたり、急遽中止にしたバンドを復活させたり、本当にてんやわんやの芸祭でした。しかし、そんな中でも実行委員や模擬店の皆が協力し合い、3日間芸大祭をやり遂げ、成功したのだと思います。

この3日間で、いろんな人たちがいろんなものに出会い、笑い、涙し、感動したのは、私にはわかりません。けれどみんなの心に、少しでも今年の芸大祭が思い出に残ってくれたのなら、幸いです。今年もおいしいジュース(芸大祭)ができました。来年はもっともっとおいしいジュースを作りたいです。

最後になりましたが、実行委員のみんなや、模擬店に参加してくれた学生のみなさん、来場して下さった方々、教職員の方々、そして地域の方々のご協力があつて今年の芸大祭は成功しました。本当にありがとうございました!!

東キャンパス芸大祭実行委員長 太田淳子



2008 西キャンパス芸大祭

“祭”まつりさい



小さい頃、祭があると聞いてワクワクした経験はありますか？浴衣を着て屋台をめぐったり、ハッピを着て神輿を担ぎ、声を出したり、打ち上げ花火に胸が弾んだり…

今年の芸大祭は、そんな気持ちを感じる“祭”にしたかったです。学園祭ではなく“祭”に。

そんな思いから2008年度芸大祭のテーマを、“祭”祭(まつりさい)にし、学園祭ではなく“祭”をしようということで、今までにはなかったお祭りらしさを意識して芸大祭を企画していきました。

まず、模擬店・企画展に提灯を飾ったり、神輿を作って学校中を練り歩いたり、ハッピや浴衣などを着たり、“祭”祭音頭というオリジナルの音頭を作りみなで踊ったり、各方面からお祭りらしさを意識して取り組みました。

また、北名古屋市民の皆様との交流をはかるために、おもちゃ作りや竹馬遊びをしたり、フリーマーケットなどをしました。特に小さなお子さん達の姿が多く見られ、名芸大生と地域の皆様との良い交流の場になり

ました。

外来イベントでは、和太鼓・ダンス・ヒューマンビートボックス・BMXのコラボレーションイベントや、ANTY the 紅乃壺・犬式の生ライブを行い、大盛り上がりでした。ココでしか見られない本当に良いイベントになったと思います。

最後になりましたが、ご協力頂いた模擬店・企画展の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。そして、騒音やトラブル等でご迷惑をおかけした地域の皆様へ深くお詫び申し上げます。これから先、またご迷惑をかけてしまうことがあるかもしれませんが、学生にも地域の皆様にも、皆から愛されるような“日本一の祭”を作れるようにこれからも日々精進し、伝統あるこの祭を守り抜いていこうと思います。本当にありがとうございました。

西キャンパス芸大祭実行委員長 稲田晃一

後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

名古屋芸術大学 スペシャルコンサート

2008年12月4日、しらかわホールで古谷誠一先生の指揮、名芸大オーケストラで、学生、卒業生また近隣の高校生のオーディションで選出された、8名のソリストを迎え開催しました。

演奏会の主旨が、ピアノコースは、卒業後も、うまずたゆまず自身の力を磨いている卒業生に道を作りたいというのに対し、弦管打はオーケストラの学生に対しても、若く優秀なソリストと共感させたいという思いと、方向が異なっていたがそれが逆に厚みのある内容の演奏会になっていました。観客動員数もほぼ満席に近く、学外の人々に対しても社会的活動の一役をかつていると思っています。



官学民連携プロジェクト
飛騨童話会議2009 オリジナルミュージカル

眠りから覚めた眠りの森の美女

音楽文化創造学科では、後援会公開講座補助を受け、今年度後期に、官学民連携プロジェクト 飛騨童話会議2009 オリジナルミュージカル「眠りから覚めた眠りの森の美女」を開催しました。

2月21日(土)、岐阜県高山市「世界・生活文化センター コンベンションホール」において、かねてから連携関係にある同センターと本学との、官学民連携プロジェクト「オリジナルミュージカル〈眠りから覚めた眠りの森の美女〉」が上演されました。

コンベンションホールに作られた舞台は「森の製作隊」の皆さんが製作した、蝶のモチーフがちりばめられた舞台。この舞台は、東京の帝国劇場より広い舞台で、開場前のその静けさは、まるで動員の心配をしているかのようでした。しかし、その心配をよそに、ホワイエは開場を待つ観客の長蛇の列。当日の開場時間は13:30であったものの、時間を繰り上げての開場となりました。

まず、ミュージックキャンプと称して練習を重ね

てきた〈ヒダ・ミュージカル・サーカスバンド(吹奏楽約70名)〉のオープニングコンサートに始まり、公募から歌詞が選ばれたテーマ曲『約束の時(終わりのない物語) 作詞：鈴木晶子(補作：森泉博行) 作曲：井上堯之』の出演者全員の演奏で、物語の幕が開きました。

ストーリーは、誰もが知る童話に登場する脇役たちにスポットライトをあてた内容で、飛騨の皆さんの歌や踊り演奏と本学メンバーが一体となり、物語が繰り広げられました。

観客は1200人あまりと、予想を上回る入場者数。また、ステージ上は、205名の飛騨の参加者の皆さんと、本学メンバー、バンドメンバーで、合計240名。ホールの中は総勢1500名の熱気で飛騨の寒さも感じませんでした。

終演後、参加者の皆さんと本学メンバーとの「お別れ会」が開かれ、なごり惜しそうに写真を撮りあう場面があちこちで目立ち、また、参加した皆さんは「今回だけで終わってしまうの?」との声。公演を見に来ていた観客の皆さんも「来年は、是非参加したい」との声があちらこちらで聞こえました。

次回は2010年2月21日(日)に開催される予定です。

今回の公演は、本学にとっても貴重な体験となりました。後援会の皆様、そして関係された皆様に感謝いたします。

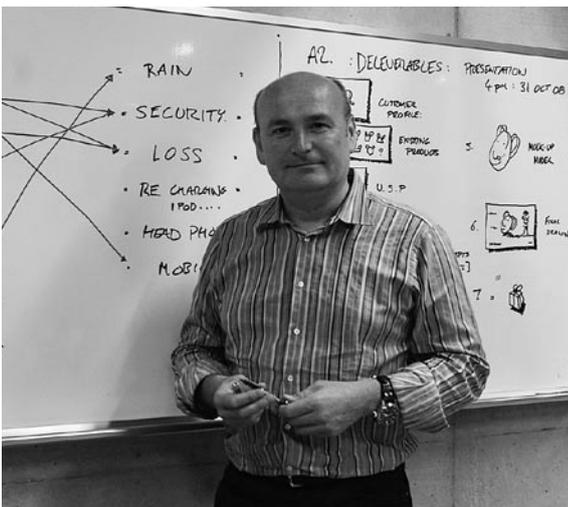
後援会補助公開講座実施報告

美術・デザイン学部

後期にはいり、デザイン学部では通常授業が再開され4年生の卒業制作はじめ、3年、2年の専門コースでの授業、1年生は2年からのコース選択を配慮したファンデーションの授業が始まりました。

そんな中で、11月には、イギリスの工業デザイナーのポール・プリーストマン氏を特別客員教授として招聘しました。

同氏は、ルフトハンザ航空のビジネスクラスのシートや機内食器のデザインはじめ、航空機のインテリアデザイン、UKヴァージン鉄道の外装デザイン、高齢者や身障者に配慮したガスクッカーなど、情報化社会の中での新素材をよく熟考した仕事でしられヨーロッパを中心に活躍しており、今回、11月1日には公開講座として「ポール・プリーストマン特別講演会」が、プロダクトデザイン、スペースデザインの学生を中心に100名を超える学生と、学外から地元のメーカーの工業デザイナー、大学関係者など真剣に聞き入る多数来場者を含め成功裏に行われました。また、講演とともにワークショップを行い、11月2日から2週間、学内(西キャンパス・X棟ギャラリー)で展覧会も催され、同氏の作品を熱心に見入る人達であふれました。



▲ポール・プリーストマン氏



▲ジェラルド・フロイス先生と河野英一先生

また、11月14日(金)には、イギリスの本学とは姉妹校関係にあり、来年度創立150周年になるブライトン大学の研究所(Centre for Research & Development)からジェラルド・フロイス先生と河野英一先生が訪れ、特別講演会「カリグラフィからタイポグラフィへラテン文字の源泉とデジタル化」が公開講座として行われました。

両先生は、伝統的な、カリグラフィをベースにした文字デザインの教育が急速なコンピュータ化の中で忘れ去られ、少なくない弊害がある中で、書体のデザインについての、学習方法の研究を、英国の全大学によって構成された研究組織の研究としてすすめてきたプロジェクトを紹介したもので、英国カリグラフィの大家であるジェラルド・フロイス先生と、ロンドン地下鉄で使われる新書体をデザインしたことで有名なグラフィックデザイナーでもある河野英一先生との絶妙なコンビでの講演でした。フロイス先生による講演の中では、簡単な筆記具による手書きの実演で、見る見る描き上がっていく生き生きとした文字に、会場から思わず興奮のため息が聞かれました。

会場は、ヴィジュアル・デザイン、イラストレーションの高学年の学生を中心に行われ、公開講座とあって、学外から、地元のグラフィックデザイナー、大学関係者、この興味ある講演をホームページで知った人も含め150名を超える人が参加しました。

デザイン学部長 溝口和夫

版画コースとアートクリエイターコース主催の4つの対外的な展覧会

①「From Remisen #10 ; Sigrun Gunnarsdóttir × Ulrike Donié」展

* 公開制作: 2008.5.7 (水)~28(水) 於 スタジオ(Art & Design Center 1F)

* 特別講演『自作について語る』: 5.13(火) 於 大講義室(B棟2F)

* 展覧会: 5.30(金)~6.11(水) 於 ギャラリー BE

* オープニング・レセプション: 5.30(金) 於 ギャラリー・ラウンジ

主催: 版画コース

1999年度より毎年開催しているデンマーク、ブランデ市のレミセン・アカデミーと本学との2名ずつの作家の交流プロジェクト。今年はデンマークのシグルン・グンナシュドティエさんとドイツのウルリケ・ドニエさんの2名の女性画家をお招きし、アート&デザインセンターのスタジオで3週間の公開制作と、特別講演、制作した作品をギャラリーBEで展示する「From Remisen」展を開催しました。



①制作中のシグルン・グンナシュドティエ

②「遭遇するドローイング;ハノーファーと名古屋から2008」

* 公開制作: 2008.11.5(水)~19(水) 於 スタジオ、G104教室

* 座談会「遭遇するドローイングについて」: 11.11(火) 於 G104教室

* 展覧会: 11.21(金)-12.3(水) 於 ギャラリー BE & be, スタジオ, ラウンジ

* オープニング・レセプション 11.21(金) 於 ギャラリー・ラウンジ

主催: アートクリエイターコース

2008年度よりスタートしたアートクリエイターコースが窓口になり、ドイツ、ハノーファー市のArs Terraが夏に開催している"International workshop DRAWING in Hannover"との国際交流を始めました。

今回は、ドイツからバーベル・カスペレクさんとフリッツP.ケルムさん、2007年度にハノーファーでのワークショップに招かれた北村暢さん(大阪)と西村正幸、2008年度に招かれた片山浩さん(版画コース非常勤講師)、2009年度に招かれる予定の長谷川直美さん(版画コース非常勤講師)の6名に、アートクリエイターコース、版画コースを中心に学生有志約20名と一緒にドローイング制作を行い、学生たちにとってもドローイングを描く大切さを肌で学ぶ機会となり、積極的にドローイングするきっかけとなりました。また版画コース4年生、大学院生の協力で、6名の作家の銅版画も制作しました。



②学生たちと制作する作家たち

③「いのちときぼうのアート展 PART 3」

* 展覧会: 2008.11.25(火)~30(日) 於 ギャラリー葵丘<岡崎市>

主催: ホスピス研究会OKAZAKI、名古屋芸術大学版画コース

関連する連続講座に参加した学生と教員の有志が、ホスピス・緩和ケア病棟に入院するがん患者さんのために制作した作品を展示しました。前回も好評だった消しゴム版画ワークショップは今回も人だかりが絶えず、手伝う学生たちも大いに励まされました。2009年3月には愛知県がんセンター中央病院アトリウム(名古屋市中種区)に展示され、4月にはがんセンター愛知病院(岡崎市)の緩和ケア病棟に飾られる予定です。



②F.P.ケルムさんのアーティスト・トーク

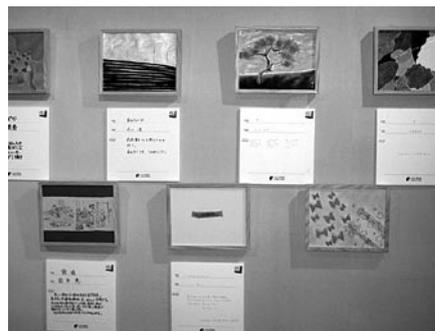
④「After Remisen #10 ; 荻野佐和子×小澤輝余子」展

* 展覧会: 2009.1.23(金)~2.3(火) 於 ギャラリー BE & be

* オープニング・レセプション: 1.23(火) 於 ギャラリー・ラウンジ

主催: 版画コース

昨年7月にブランデ市で開催された"International Workshop for Visual Artist in REMISEN BRANDE"に招待された卒業生作家 荻野佐和子さん(洋画コース卒)と小澤輝余子さん(大学院修了)の二人の帰国報告展を開催しました。初日のアーティスト・トークには学内外の大勢の方々が集まってくれました。



③作品とメッセージによる展示



④初日のトーク(左:小澤さん、右:荻野さん)

版画コース、アートクリエイターコース
准教授 西村正幸

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

人間発達学部では、2008年8月9日(土)、愛知県女性総合センター(ウイルあいち)大ホールにおいて、大妻女子大学の柴崎正行先生を講師として招き、「これからの幼児教育を考える-----幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂を受けて----」と題する「特別公開講座」を開催しました。

人間発達学部は、2008年4月、研究活動の一層の推進を図るとともに、地域に開かれ、地域に貢献する学部を目指して、「人間発達研究所」を設立しました。この特別公開講座は、短期大学部保育科時代からの事業を継承するもので、後援会からの補助も受けて、人間発達研究所の事業の一つとして実施しています。

定員800名の大ホールは、開場とともに、一般の人、保育・幼児教育の関係者、そして本学部学生で満席となり、1時間30分にわたる講演に熱心にメモを取りながら聴き入っていました。

講演では、2008年3月、国から示された「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の改訂内容について、改訂過程に深くかかわって来られた立場から、その背景、要点等が具体例をまじえて分かりやすく解説されました。

まず、今回、幼稚園や保育所の保育内容の基準である「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」が改定されたが、これには3つの重要な意味があること、すなわち、第1に「乳幼児期は人格形成の基礎を培う時期」であることが平成18年に改正された教育基本法に規定され、それを受けて幼稚園・保育所の役割が「人格形成の基礎を培う」ことにあることが明

確にされたこと、第2に平成19年6月に改正された学校教育法で、幼稚園が学校体系の最初に位置づけられ、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」学校の一つであることが明確にされたこと、第3に保育所保育指針が幼稚園教育要領、小・中・高の学習指導要領と同時に、かつ、一貫性をもって示されたことに意義があるとの説明がありました。

続いて、今回の改定で重要な点の第1は、保育所保育指針が拘束力のある厚生労働大臣「告示」という形式で示され、内容も「大綱化」されて、細かな事項は保育所の創意工夫によることとされ、第2は、小学校への接続の観点から、保育所・幼稚園では、豊かな体験、身体を使った実体験が大事で、①『身体を動かすことの大切さ＝外遊びをしてよく身体を動かすこと』、②『規範性の芽生え＝集団のルールはお互いが気持ちよく生活すること』、③『協同性の獲得＝皆で力をあわせること』の3点が重要となることが強調され、幼・保と小学校の先生がお互いに参観、交流して子どもの様子を知ること、保育所も「保育要録」という在園児の成長記録を小学校へ送付することが仕事となることの説明がありました。

そのほか、近年盛んとなった「子育て支援」の意味を問い直す時期に来ていると指摘され、子育て支援は子どもが乳幼児期に、「親に愛され、大事にされて過ごせた」と実感できるようなものでなければならないと、子どもの視点を疎かにしてはならないことが強調され、講演は盛大な拍手に送られて、終演となりました。

人間発達学部 子ども発達学科
准教授 鈴木岩雄



▲特別公開講座

慶南大学校 グローバルハンマプログラム に参加して

人間発達学部 子ども発達学科 2年 森野大輔

私は8月に、韓国の慶南大学校で行われるGLOBAL HANNMA 2008という韓国語と文化を学ぶ、プログラムに参加しました。以前から海外に行ってみたく、と強く思い続けていた私は、このプログラムを大学の国際交流センターで知り、授業料、宿泊費等の負担は、慶南大学校側がしてくださると聞き、初の海外に行くチャンスだと思い迷わず応募しました。そして、同じ大学のメンバーと共に韓国へ出発しました。

今回、約3週間のプログラムの間お世話になる慶南大学校は、釜山から高速道路をつかい約1時間という距離にある、馬山市という町にある大学校である。大学は海と山に囲まれ、すぐ近くには近代的な建物が隣接するとても恵まれた環境の中にある大学校である。

空港に着いた私たちに「ようこそ慶南大学へ」と書かれたプレートを持って、上手な日本語で話しかけてくれた女性がいました。彼女は大学校で日本語を学んでいる学生で、このプログラムのボランティアスタッフとして名古屋芸術大学の担当をしてくれました。

初の海外で言葉もわからなく緊張していたのですが、彼女が日本語で話しかけてくれたので、とても安心したのを今でもよく覚えています。

プログラムの主な内容は、韓国語の学習と文化の体験です。3週間毎日何らかの予定が入っていたので、暇な日なんて1日もありませんでした。韓国語の学習は、面接を行いレベル別に分かれていて学習します。事前に学習をしていなかった私は、面接でほとんど何も話せず、案の定初級のクラスに入ることになりました。このクラスは、同じように私の他にも韓国語がわからない人が多



く、先生もそれを知っておられるので、韓国語の基礎から丁寧に学ぶことができました。このクラスには、中国、台湾、フィリピンの学生も一緒に、かたことの英語や習ったばかりの韓国語を使いながらコミュニケーションをとり和気あいあいとしたクラスで楽しみながら学習することができました。

このプログラムには、韓国で体験したこと、思ったことなどを参加者全員の前で最終日に発表するスピーチコンテストが予定されていました。私は先生や韓国人の友達の力を借りながら、スピーチの内容を決め、コンテストにむけ練習してきた結果、コンテストで努力賞をいただくことができました。このときクラスみんな、そして先生に祝福された感動は忘れることはないでしょう。

慶南大学校は、私たちに韓国の文化を体験させるため、さまざまな体験を用意してくださいました。テコンドーの授業や、ビビンバ作り、みんなで韓国の伝統衣装を着たり、世界文化遺産であるお寺に連れて行ってもらったりしました。中でも、釜山の海でみんなで遊んだのは、本当に最高に楽しい思い出です。

そして、このプログラムで得たもので一番大きなものは、3週間同じ勉強をし、同じ物を食べ、同じ体験をする中で、かけがえのない存在になっていった友達です。別れの日には、自然と涙が止まらなくなりました。いつのまにかみんな大切な存在になっていたんだなあ実感しました。

このグローバルハンマで得た友達とは今でも親交があり、私が遠く離れた友達の家に遊びに行ったり、友達が名古屋に来てくれたり、メールで恋の相談をしたり(笑)この前は韓国の友達と名古屋で再開することができ、とても不思議な気持ちになりました。

この様なすばらしい体験の機会を私に与えてくださった、名芸大の先生方、慶南大学校の皆様方には本当に感謝しています。

3週間の人生の宝物。そんな素敵な体験をしたいひとにおすすめます。

カムサハンミーダ!!!



グローバル ハンマプログラムの 内容

(2008年度の場合)

言語コース

韓国語、文化及び習慣を学ぶ。学習は毎日午前中に行われ、語学能力別クラスに分けられる。教員は全てプロとしての資格を持つ。

韓国の文化及び 習慣コース

教室以外に社会参加の体験を通じて学ぶ。(観光旅行 史跡めぐり ハイキング 映画鑑賞等)

費用 本学学生は2名まで費用は免除される。(姉妹校提携校のため) 本人負担は往復の交通費及び個人的費用のみ。

募集時期 4月下旬～5月上旬、国際交流センター掲示板にて



2008年度 デザイン学部 レビュー展

デザイン学部の年度末の恒例行事である「デザインレビュー展」が、1月17日(土)、18日(日)に本学西キャンパスで開催されました。

この「デザインレビュー」は、デザイン学部の1・2・3年生を対象として、毎年年度末に、1年間で制作をした全ての作品の展示・口頭プレゼンテーションを行う演習科目で、教員に向けてのプレゼンテーション・講評を終えた展示会場が一般に向けて公開されたものです。

体育館の1・2階も含めた全てのスペースと、X棟のプレゼンルーム・ギャラリー・3階教室と、さらにU棟の一部も使っての大規模な展示は、大変見ごたえのある内容でした。

キャンパスには、土日の連休とも相まって、学生達の友人やご家族など大勢のギャラリーが訪れ、熱心に作品を見学していました。



名古屋芸術大学音楽学部 第36回卒業演奏会

2月25日(水)と26日(木)の2日間、名古屋芸術大学音楽学部第36回卒業演奏会がしらかわホールで行われました。

今年は、2学科制に学科が改変されて最初の卒業生を送り出す年にあたり、大学にとっても節目の年にあたります。そんな中、各コースから選出された26人の学生が、4年間培ってきた技術を余すことなく演奏において披露していました。会場に訪れた観客からも、たくさんの拍手が演奏者に送られていました。



名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第11回修了演奏会

3月3日(火)、4日(水)、5日(木)の3日間にわたり、しらかわホールにて、第11回音楽研究科修了演奏会が行われました。今年度は指揮に本学客員教授ヤン・ヴァン デル ロースト氏を迎え、声楽3名、ピアノ4名、トランペット1名、打楽器1名、作品発表1名、計10名の伴奏及び作品演奏を、コレギウム・アカデミカ(教員、卒業生を中心としたオーケストラ)により、それぞれ演奏されました。どの学生も、演奏面、精神面において卓越した技術を発揮し、2年間の研究成果を存分に発揮していました。

第13回名古屋芸術大学大学院 美術研究科・デザイン研究科 修了制作展

第13回の名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、3月3日(火)～8日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で行われました。

この春、大学院を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

最終日の8日には、大勢の関係者が訪れて熱心に鑑賞していました。



『第36回卒業制作展』 を終えて

卒業制作展委員長 西村正幸

学生たちの学部4年間の集大成として、今年も卒業制作展が2月24日(火)～3月1日(日)の期間、3会場で開催されました。

愛知県美術館ギャラリーは、A～I展示室の9室を使用して、入り口から美術文化学科、日本画コース、洋画コース、デザインマネージメント、インダストリアルデザイン、スペースデザイン、メタル&ジュエリー、テキスタイルデザイン、メディアデザイン、イラストレーション、ヴィジュアルデザインの各選択コースの順に作品が展示されました。

名古屋市民ギャラリー矢田は、第1展示室から第7展示室までの全室を使用して、3階は造形科の彫塑、造形、ガラス、陶の各選択コースと、版画選択コースの作品がほぼコースごとに一室ずつ展示され、4階の大きな展示室にはデザイン学部のメディアデザイン、メタル&ジュエリーの各選択コースの作品とデザイン学部大学院修了作品が一同に会しました。

3つ目の会場である本学西キャンパスでの展示は、アート&デザインセンターにデザイン学部のインダストリアルデザイン、スペースデザイン、メタル&ジュエリーの各選択コースの作品が、デザインX棟和室にテキスタイルデザイン選択コースの作品が、洋画Zギャラリーに洋画コースの作品が展示されました。

今回は、情報誌「びあ」に見開きで卒展制作中の学生たちの取材を掲載したり、愛知県美術館ギャラリーに田の会場の展示風景を、名古屋市民ギャラリー矢田には学内展示風景を、スライドショーで流したりして、来場者にできるだけすべての会場に足を運んでいただく工夫をしました。

しかし、展示自体は、卒業制作の意気込みが感じられる活気ある空間を生み出していたものの、愛知県美術館ギャラリーの展示が昨年より1日多かったにもかかわらず、全体の来場者数が減少する結果と



なりました。そのことで気になったのが、学内関係者・在校生が卒展をあまり見に来ないという現状です。特に来年卒展に作品を並べることになる3年生が、すぐ身近な先輩たちの4年間の集大成と言える作品が並ぶ卒展にどうして関心を示さないのでしょうか。

モノづくりを学んでいる者として、自分がつくるモノだけでなく、他人の制作した作品にも関心を示せないことが、とても気がかりです。昨年アートクリエイターコースと美術文化コースの入学予定者を集めて試みた卒展ツアーを、今年は全学あげて行ないましたが、参加した高校生が非常に熱心に、丁寧に見て回っていた姿と比較すると、在校生の卒展に対する熱意のなさは一体どこに原因があるのか、教員一人一人も真剣に検証し、対処すべきと強く感じました。

一方、恒例のスタンプラリー作品プレゼントは年々定着し、楽しみにして会場全部を回って下さるリピーターの方々が増えて来ており、作品を提供してくれた版画、ガラス、陶の各選択コースの学生たちにとっては、今後の活動への励みにもなっていることでしょう。



2008年度 ブライトン 大学賞

イギリスのブライトン大学賞の授賞式が、2月27日(金)午後4時30分より、名古屋東急ホテルにて行われました。ブライトン大学よりアン・ボディントン教授とジョナサン・ウッドハム教授が審査員として卒業制作展の3会場を見られ各受賞者を決定しました。各受賞作品の講評とともに賞状と副賞が授与されました。



▲受賞者の皆さん

No	賞	科・コース	氏名	作品名
1	1等賞	デザイン学部 ヴィジュアルデザイン	藤塚 尚子(Ms. Shouko Fujitsuka)	世界珍道中～あなたの知らないセカイの今～
2	2等賞	デザイン学部 スペースデザイン	青木 勤(Mr. Tsutomu Aoki)	Sit Dan
3	3等賞	デザイン学部 ライフスタイルデザイン	可知 将樹(Mr. Masaki Kachi)	あいうえお
4		美術学部 絵画科(日本画)	松本明日香(Ms. Asuka Matsumoto)	かすかに
5	佳作	美術学部 造形科	松永 綾加(Ms. Ayaka Matsunaga)	誕生
6		デザイン学部 スペースデザイン	中嶋 健太(Mr. Kenta Nakashima)	Ca field
7		デザイン学部 イラストレーション	高野沙也加(Ms. Sayaka Takano)	Shall we see in your dream ?
8		デザイン学部 ライフスタイルデザイン	清水 夏輝(Mr. Natsuki Shimizu)	ナゼコレ?～大切にされる理由～
9		デザイン学部 インダストリアルデザイン	高石 憲一(Mr. Norikazu Takaishi)	ENJOIN
10		美術学部 絵画科(洋画)	川上 美里(Ms. Misato Kawakami)	untitled



▲藤塚尚子さん<世界珍道中～あなたの知らないセカイの今～>



▲青木 勤さん<Sit Dan >



▲可知将樹さん<あいうえお>



▲松本明日香さん<かすかに>

第19回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

今年度は、東西キャンパス合わせて19講座を開講いたしました。これまで開講してきた内容に加え、今回はオカリナや銅版画などの講座を新設し、ご好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においても2講座を開設、多数の受講申込をいただきました。右記の表は、今年度の開講講座と受講生数の一覧です。

今後も皆様の幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設につとめてまいります。多くの方々のご参加をお待ちしております。

なお、2009年度の講座につきましては、6月中下旬頃パンフレットが完成する予定です。お問い合わせは、本学芸術文化交流室までお願いいたします。名古屋市との連携講座に関することは、名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせください。

2008年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	ルネサンス絵画のみかた(2) —ジョットからダ・ヴィンチまで—	8	西キャンパス
2	やさしい創作折紙	10	
3	人物(着衣)のデッサンと油絵実技	13	
4	作ろう やきもの	12	
5	木彫を楽しむ Part X	16	
6	美しい水彩画II — 秋の風景、花、果実を描く —	30	
7	はじめての手織 —木杵を使った小さな織物—	16	
8	Macintosh CG入門! ~ Adobe Photoshopで簡単デジタルコラージュ制作~	12	
9	エッチング 入門	6	
10	体験! リトグラフ~多色刷り石版画で作品を~	11	
11	吹きガラスに挑戦!	10	
12	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル (初心者向け)	14	東キャンパス
13	音楽療法技法 —コロラド州立大学神経学的音楽療法を通して—	12	
14	パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう	10	
15	インターネットとWordではがき作成	10	
16	ピアノを弾こう~始めの一步から~	10	
17	楽しい遊びと子どもの発達	22	
18	歌舞伎の世界への誘い	11	
19	木管五重奏の愉しみ	6	
合計		239	

2008年度 名古屋市生涯学習大学連携講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	西洋風景画の流れとその魅力	58	名古屋市 女性会館
2	乳幼児期から思春期の子どもの育ちを支える	40	
合計		98	



▲体験! リトグラフ~多色刷り石版画で作品を~



▲木彫を楽しむ Part X



▲作ろう やきもの



▲吹きガラスに挑戦!



▲木管五重奏の愉しみ



▲やさしい創作折紙

名古屋芸術大学音楽学部 同窓会総会・卒業生懇親会

去る2008年11月3日(月・祝)に名古屋マリオット・アソシアホテルにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は山田正丈会長を議長に、平成20年度事業報告・決算報告、平成21年度事業計画・予算案を審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を移しての「懇親会」は約250名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。山田会長、堀田秀雄音楽学部長の挨拶でパーティーが始まり、歓談の輪がいくつものなか、「今回こそは」と用意した多くの料理の皿はまたたく間にきれいになっていきました。

また、今回のゴールデンプライズ賞は、NHK交響楽団トランペット奏者の柘本浩規さん(11期器楽科弦管打専攻卒業)が、受賞されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後のロビーは尽きることのない話し声でいっぱいでした。

東キャンパス 演奏課課長 太田成夫
(7期 声楽科卒業)



名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 同窓会 総会・懇親会報告



去る2008年11月16日、名古屋芸術大学西キャンパス学生食堂に於いて、第21回名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部同窓会 総会・懇親会が開催されました。

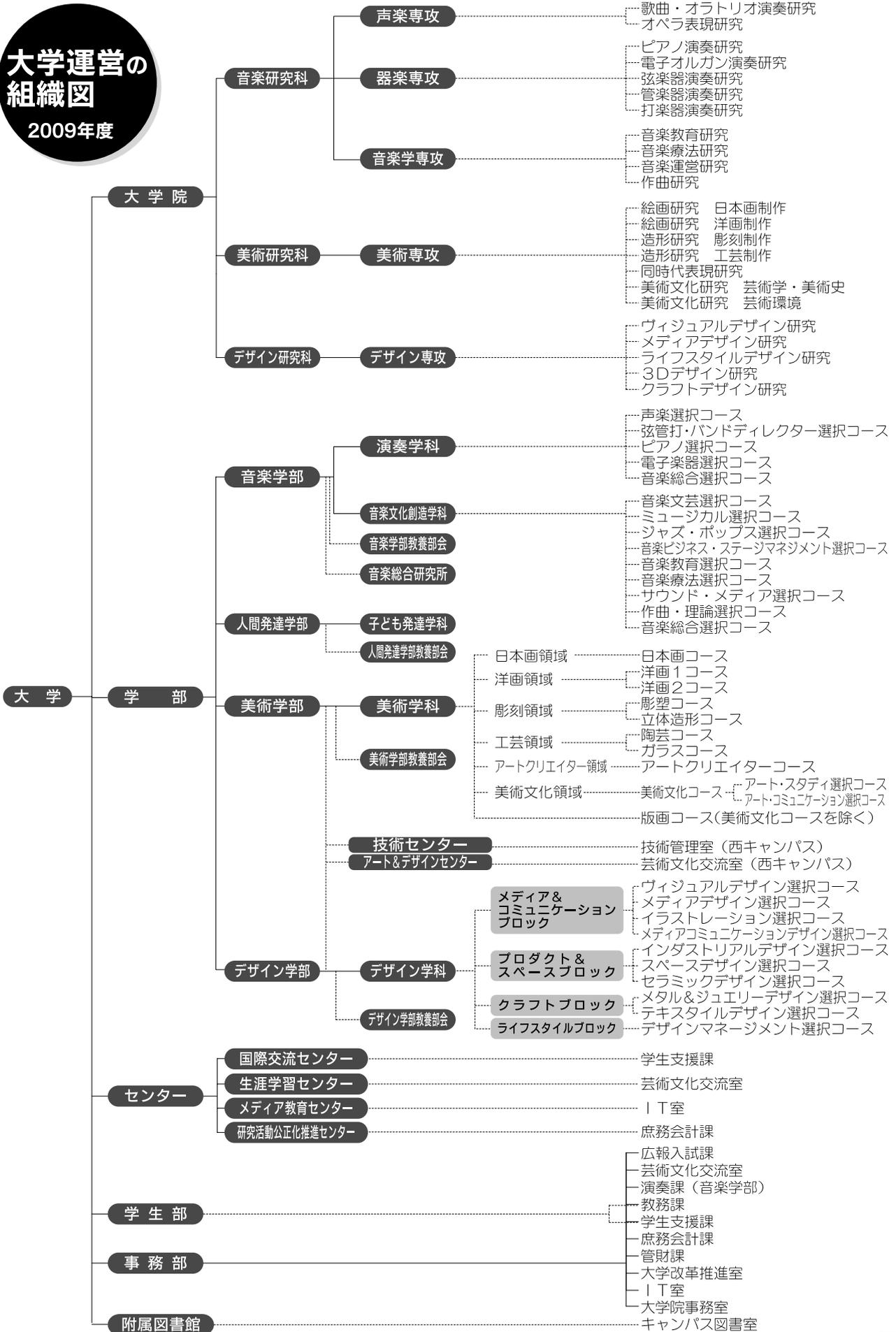
キャンパスでの開催は大変久しぶりだったので、同窓生の方々の反応を心配しておりましたが、懐かしのキャンパスでの再会を呼びかけ合って集まれた8期の皆さんを始め150名を超える参加者を迎え盛況な会となりました。

総会では平成20年度事業報告、決算報告に続き平成21年度事業計画、予算案が原案通り承認されました。つづいて懇親会では多くの先生方にもご参加いただき、リニューアルされたホームページの紹介、功績のあった同窓生へ贈られる「ゴールデンプライズ賞」の授与、ビンゴゲーム等を交えて楽しい歓談のひとつを過ごす事ができました。

同窓会は役員一同ますますの充実を目指し活動を続けております。是非ホームページに目を通していただき、皆様からの情報のご提供、ご協力、そしてご支援をお願い申し上げます。

美術学部・デザイン学部同窓会 荒木紀江
(12期 絵画科 日本画コース 卒業)

**大学運営の
組織図**
2009年度



後援会授業料貸付事業

昨今の底の見えぬ不況の中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は、ひどく大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに70数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、むずかしい条件がついていますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1) 後援会学費貸付口座預金
- (2) この規程に基づく返還金
- (3) 寄付金・その他の収入

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 (2) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任期は次のとおりとする。
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 (2) 監事は会務を監査する。
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

- 1 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
- 2 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
- 3 役員の上親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
- 4 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
- 5 この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

- 1 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
- 2 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
- 3 この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

せせらぎ 会員募集

問い合わせ先 会長 長江政則
〒480-1214 瀬戸市上品野町927
電話 0561-41-1655
携帯電話 080-3621-7706

合唱をやることには次の効果があります。『ハーモニーを作ることで、顔の表情が豊かになる。』『交感神経に働きかけ、脳によい刺激をあたえる。』日本テレビの「世界一受けたい授業」という番組で講師の青島広志氏がおっしゃっていました。

まだあります。『姿勢が良くなる。』『声も良くなる。』『ストレス発散にもなる。』なるほど、そんな効果があるなら合唱万歳！

「せせらぎ合唱団」には子弟が芸大生現役の方、はるか以前に卒業してしまった方等、さまざまな老若男女が参加し、美声をはりあげています。なにもむず

かしい曲には挑戦しません。誰もが一度は子供のころに歌ったことのある文部省唱歌をおもに練習しています。どうぞ、一度練習をのぞいてください。お待ちしております。

(吉原征生)

練習日 毎月第3日曜日(都合により変更あり)
時間 12時～13時30分
場所 西キャンパス体育館(会議室)
指導 江端智哉 先生
山田正丈 先生

絵画グループ 壁の華

このところ、壁の華は現代美術に熱中していて先生のパワーにいつのまにかその気にさせられています。

画布にむかって無心に遊ぶ……デッサンもあつというまに時間がすぎてしまう程です。

芸術大学に学ぶ子供の親は、アートへのかかわり方が柔軟かつポジティブでユニークな気がします。断続的ではありますが、長く続けてこられたのもこうした仲間の方々のおかげです。

“わたしの絵”描いてみませんか。

(古田悦子)

活動状況

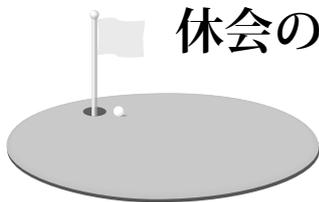
1. 例会
日時：毎月第3日曜日 午後2時～4時
場所：西キャンパス体育館
(体育館会議室／彫刻棟教室他)
2. グループ展
日時：4月28日～6日間
場所：名古屋市民ギャラリー
3. スケッチ会 10月予定
4. 懇親会(年2回)

入会希望者その他『壁の華』に関する連絡先

- 会長 フィカフ 淡川敏郎
〒462-0802 名古屋市北区上飯田北町1-47
電話 052-914-9565 090-8952-0261
- 運営委員長 森部みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話 0587-32-2814

ゴルフサークル名芸会

休会のお知らせ



昨年の社会情勢、何よりもメンバーの健康状況を鑑み、来る平成21年度4月7日企画の「第30回記念コンペ(於：三重東建多度CC)」終了後に暫く休会します。

思い出一杯のゴルフサークル「名芸会」、後援会を通しての仲間、友人同士がいつも元気に一生懸命のプレーがいつも思い出されます。後援会には30回コンペ開催出来ることに、長年に渡りご協力をご感謝申し上げ、今後は再会を目標に休会中であっても再会準備を怠りなきよう努力をして参ります。

15年間ありがとうございました。

会長 林 錠 幹事 武本秀輝

■「木祖セミナーハウス」をご利用ください

所在地：〒399-6203 長野県木曾郡木祖村大字小木曾4793

電話：0264-36-2570

アクセス：①マイカー利用—中央自動車道中津川インターより国道19号で90分走行、藪原より村道15分

②公共交通機関利用—JR中央西線藪原駅下車

バス利用25分「五月日(ごがつひ)」下車徒歩10分、

またはタクシー利用10分(要予約TEL. 0264-36-2403やぶはらタクシー)

利用できる期間：通年(ただし、12月30日～1月2日は休業)

利用できる方：①名古屋芸術大学ほか学校法人名古屋自由学院傘下の学校の学生・園児

②学校法人名古屋自由学院の教職員・その家族

③①の学校の卒業生・その家族

④その他特に使用が認められた方

(①の学生・園児の家族など)

(③④の方は、①②の方の紹介が必要です。)

利用料(食事代は含まない)：学生 1,000円

園児 500円

教職員 1,500円

その他 2,000円

(同伴の3歳以上小学生以下は1,000円、2歳以下は無料)



食事：利用申し込みの際に予約してください。(料金は夕食1,500円、朝食500円)

利用申し込み手続き：下記申し込み先へ、電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、そのときにご説明します。

付近の観光スポット：「こだまの森」(テニスコート・プール・パターゴルフ・ピクニックガーデン・多目的運動場・バーベキューハウス・巨大迷路・溪流釣りなど)、やぶはら高原スキー場、木曾福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原など

問い合わせ先・申し込み先：学校法人名古屋自由学院法人事務局総務部総務課(TEL. 0568-24-0311)

編集後記

平成21年春、今年も多くの卒業生が巣立ち、また多くの新入生が入学します。しかしながら、今彼らを取りまく環境はといえば…世界中が昨年来の経済恐慌であたふたし、派遣問題、Working Poorに代表される貧困問題、格差社会等、史上最悪の氷河期を迎え、決して明るい未来とは言えません。でも、だからといって悲観してばかりいられません。こんな時代だからこそ、自身と向き合い、豊かな感性と力強い心と体を蓄え、自身の目で社会と対峙していかなくてはなりません。もちろん私たち自身も同様です。共に楽しく頑張りましょう。

広報委員長 後藤優子

◆発行 名古屋芸術大学後援会

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL 0568-24-0325 FAX 0568-24-0326

◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会

◆表紙デザイン

本学デザイン学科学生 武藤理恵子

◆封筒デザイン

本学デザイン学科卒業生 福見光洋

◆発行日 2009年(平成21年)3月31日

